

2011年9月9日

横浜ゴムのオレンジオイルを配合したフラッグシップタイヤ 「BluEarth-1」がボストン科学博物館に展示される

<参考資料>[ヨコハマタイヤコーポレーション発表 ニュースリリース]

この資料は、当社の米国のタイヤ生産販売子会社であるヨコハマタイヤコーポレーション(YTC)が現地で発表したリリースをベースに和訳したものをご参考として提供しています。

2011年秋から2年間の展示がスタートし、オレンジの表皮から抽出したオイルを利用した横浜ゴムの次世代型エコフレンドリータイヤ BluEarth-1 が紹介される。

フラトン、カリフォルニア発(2011年8月15日) — 博物館にタイヤが展示されることは稀なことだが、オレンジオイルが添加された横浜ゴムの乗用車用タイヤ BluEarth-1 はその例外となった。画期的なエコ技術を取り入れたタイヤが今年の秋からボストン科学博物館に2年間特別展示される。

交通・再生エネルギー・ナノテクノロジーエリアで予定される「環境にやさしいタイヤ作り」の対話型展示で、BluEarth-1の技術に焦点が当てられる。新開発コンパウンドのナノブレンドゴムは、配合技術により、低燃費、ウエット、耐摩耗性の3つの性能を高めるコンパウンド。特性の異なる素材の化学反応をコントロールし、3つの性能の「黄金比」を導き出す。本商品は、低燃費性能と背反するウエットグリップを高める為、「オレンジオイル」を配合している。タイヤ走行時のエネルギーロス(発熱)を最小限に抑えることで、ころがり抵抗を低減し燃料消費を抑制する。オレンジオイルの技術を採用した企業は、世界でも横浜ゴムが最初にして唯一。

YTCの田中靖代表取締役社長兼CEOは、「今回の展示によって、横浜ゴムが環境にやさしい技術開発に取り組んでいることが証明でき嬉しく思う。ボストン科学博物館は学術、文化をリードする施設として世界トップレベルの科学センターにランクされている」と述べた。



BluEarth-1

また、「横浜ゴムは、世界的な課題である環境保護に取り組んでいる企業。BluEarth はヨコハマが世界に向けて発信していく新しいタイヤコンセプト。追求するテーマは『環境、人、社会にやさしい』こと。だからこそ、環境にやさしいオレンジオイルなどの技術をボストン科学博物館に評価していただいたことを、光栄に思う」と語った。

ボストン科学博物館の教育担当バイスプレジデントであるポール・フォンテーヌ氏は、BluEarth の展示は、環境問題や優れた技術開発に脚光をあてるというボストン科学博物館の使命を反映したものだという。「我々は展示、プログラム、イベント、出版を通じ、新しい技術に対する理解を広げていこうと取り組んでいる。今回の展示は、製造に関する革新的、環境的アプローチを紹介しており、特にタイムリーといえる。私達はこうした最先端の技術を見学者に紹介する機会を持つことは、いつでも歓迎する」と述べた。

BluEarth-1 に使われている AIRTEX Advanced liner も併せて展示される。空気圧が低下したタイヤはころがり抵抗が大きくなり燃費が悪化し、さらに下がりすぎると安全性にも悪影響を及ぼす。そのため適切な空気圧の維持は重要である。AIRTEX Advanced liner はタイヤから漏れる空気を抑制するために開発された。

BluEarth-1 は現在、日本と欧州で販売されており、米国では 2012 年に 3 サイズを販売する予定。

<ヨコハマタイヤコーポレーションについて>

YTC は日本の東京に本社を置く横浜ゴムの米国における生産販売子会社。横浜ゴムは 1917 年に設立され、タイヤ、ホース配管、工業資材、シーリング材、航空部品、ゴルフクラブなどを生産販売しているグローバル企業。YTC は全米に 4,500 店以上の販売ネットワークを持ち、初めてオレンジオイルを採用した乗用車タイヤ dB Super E-spec、ハイパフォーマンスタイヤ、ライトトラック用、乗用車用、トラック・バス用、建設車両用タイヤなどフルラインアップしている。ヨコハマの広範囲にわたる製品ラインアップのさらなる情報は YTC のホームページ (<http://www.yokohamatire.com/>) で見られる。また、YTC はタイヤのケアやゴム工業会とナショナル・ハイウェイ・トランスポート・アンド・セーフティ・アドミニストレーションによって定められた安全ガイドラインの強いサポーターである。詳細は YTC のホームページの「Tire Safety」で見ることができる。

<ボストン科学博物館について>

ボストン科学博物館は、科学、エンジニアリング技術を体験しながら見学できる施設。各種プログラムや 700 の対話型展示を通じ、来場者は年間 150 万人を数える。科学分野関連のあらゆる展示物を一堂に集めた初めての博物館として 1830 年に設立された。館内にはトムソン・シアター・オブ・エレクトリシティ、チャールズ・ハイデン・プラネタリウム、ミュガー・オムニシアター、ゴードン科学技術センター、3-D デジタルシネマ、バタフライガーデンなどがある。また、インテル・コンピュータ・クラブハウス・ネットワークを通じて年間 2 万 5 千人の世界の 10 代と連絡をとっている。さらに、10 年間にわたり、4,100 万ドルのアメリカ国立科学財団 (NSF) の基金を主導し、多くの科学博物館にナノスケール・インフォーマル・サイエンス・エデュケーション・ネットワークを設立した。ボストン科学博物館の展示プランである「Science Is an Activity」は NSF から多くの助成金を受け、世界の科学センターに影響を与えている。また、同博物館の技術能力センター (National Center for Technological Literacy) は、あらゆる世代の人々にエンジニアリングや技術の知識を高めてもらうとともに、次世代のエンジニア、発明家、科学者を勇気付けることを目指している。

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム (株) 広報部 担当：菊地・木下
TEL : 03-5400-4531 FAX : 03-5400-4570